

勢陽五鈴遺響 度會郡

四十

和書門				
二九〇一九				
四〇	冊	架	函	號

庫文閣内			
七三函	二九〇一九	冊	和書類
四〇	冊	架	函

内閣文庫	
番號	和 29019
冊數	40 (40)
函號	172 310

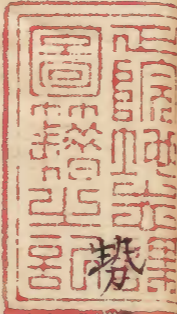
地三三 一〇七二五號



同21

Faint vertical text columns on the left page, likely bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and ghosting.





陽五鈴遺響度會郡卷之十七

天狗拋石 了リ土 俗往昔山中ヨリ天狗ノ此処

如ク自然ノ巨嵩ナリ此奇談ニ相 同ニ攝州

河辺郡山本村路傍ニモアリ往客是ニ跪ク者

必崇アリ釋行基加持力ヲ以テ田間ニ抛弃

他州往々アリ奇トスルニ不足俚俗ノ習ナリ

御座石 三津ヨリ南標舟川ノ西崖ニアリ御塩

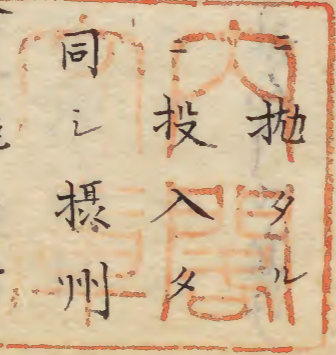
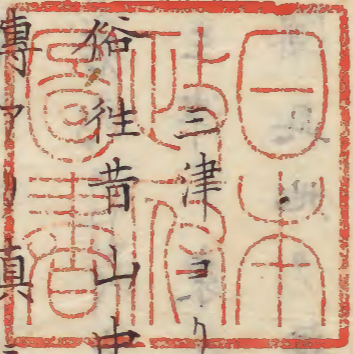
殿ヨリ十三町十間 土俗傳云皇大神遷幸ノ

御座石 三津ヨリ南標舟川ノ西崖ニアリ御塩

殿ヨリ十三町十間 土俗傳云皇大神遷幸ノ

殿ヨリ十三町十間 土俗傳云皇大神遷幸ノ

殿ヨリ十三町十間 土俗傳云皇大神遷幸ノ





并此嵩上ニ暫ク憩玉ノ処ナリト故名アリ
 此嵩ヨリ一町東ノ地ニ宿リ宿ヲ称ス即濱蒔
 一宿ノ地ト云所傳アリ未詳ト云ヘ氏倭姫命
 世紀ニ批テ御船泊ツ義ニメ其船以停止スル
 以地亦以人ト此地ヨリ朝熊至リ五十鈴河
 上宮ニ遷座ノ頓路ナリ故云
 神祇百首

二元淳信云ツケテ立多クイハレト云フ
 鷺防森ニ三津ノ東ニアリ即濱蒔ノ南三津川ノ
 北厓ナリ此地ヲ平坦ニメ後世耕田ニセリ長
 一三町許ノ嵩山ナリ小松樹叢出ス雜記名所

將圖會共ニ其貌鷺鳥ニ似タル故名ト云非
 ナリ今閱スルニ狭長ニメ凸然然リ鳥翼ヲ張
 ルニ似タリト云氏鷺ニ限ルハカラス此地
 海瀕ニ近キ河涯ニメ常ニ水鳥ノ栖居スル多
 故ニ名クナルト云
 雜記所載
 鷺ノ羽ノ小石ノ白ニ似たり波たれりノ後チホモテリ云
 山家集西行ノ咏テ此ニ引擬スルハ非ナリ鷺
 嶋及峇志濱志摩州ニ隸シリ此処ニ非ス
 亀ヶ森ニ三津川ヲ隔テニ町東ニアリ長ニ町許
 島山ニメ其状水鳥ニ似リ樹木叢生ス是ラ
 男山下称ス又半町許東ニ其状相似テ叢樹

ノナキアリ女亀ト称セリ
姫小松 亀森ノ東三町許ニアリ三津川ノ下
流ニノ江村ニ近シ勢陽雜記云浦邊ニ指出夕
ル岩積ノ上ニ或一丈或七八尺許ノ女松五本
アリ梢枝ツリ致景限ナル古来縁ヲ出サ又ト
ナリ不老ノ姿ヲ喻タル名ナルヘシ攝津州住
吉ノ岸姫松ノ類ト云ヘリ今聞スルニ状相同
ト云ヘシ春夏ノ間嫩芽ヲ生メ生茂ス然レシ
矮小ニメ老樹ニ非ス是其質嫺ニメ且其地海
瀕ニチカク常ニ潮風ニ吹レテ長シカタレシ
憶ヘシ因ニシテ年々ニシテ
歌占弓三津度會神主家次カ裔孫北村八右

衛門某ノ家藏ナリ伊勢三郎義盛太刀及哥占
弓并伝来セリ向木ニテ造シ長三丈許取
束ト赤地錦ヲ張り其上ヲ彩糸ニテ括リ卷夕
元ナリ弦ハ八枚ト短冊ヲ附タリ又弓ノ本末
弭ニ哥アリ一首ヲ上下ニ書タリ
本弭ノ歌ニホクハウツトニシテナル方占
末弭ノ歌ニハクハウツトニシテナル方占
又八枚短冊云

ますやい底なる新むむあは志もあふりあふりあふり
ををゆるむの鏡となき水もちりうもとやととと
糸の糸もとの糸や世の糸おくれり例下りり
ものも下りり下りり下りり下りり下りり下りり

りてすのちいこの才地... 父王... 志や、父子...
家河... 川の... せ... 川乃...
小... 東白... 山
ぬま... 乃... 山

今詳ニスルニ謡曲哥占ニ二見大夫家次ト記
セリ諸国ヲ歴覽ノ途ニ卒死ス頻ニ蘇リ白髪
ニ變シ歌占ノ縁ヲ引テ其子幸菊丸ト云ニメ
父リ遇ヒテ吾身ノ地獄ニ墮セシヲ話リタル
事蹟ヲ著作セリ是四時ノ寓言ニ大俳優本曲
ニ作ルタルモノナリ然ルニ此遺事トヨクテ
此ニ擬作タル物ト似タリ然レ其歌占
古昔ノ習俗ニテ此地ニ旧ヨク有タル処ヲ

彼謡曲ニ牽強メ著ス知トモ謂ニ今觀ルル
ノ占弓ハ真ニ近世ノ所為ト非ス古物トシテ
夕リ然レ其菟波集所載ノ濱菘ノ歌ハ敢テ旧
古ニアラス

五峯山密嚴寺三津ノ南ニあり山禪宗本尊
十一面觀世音立像三尺許開基佛通禪師
五峯山以名ハ此淨刹以南ニ山峯列リ聳テ五
峰並ニリ其麓ニ建ル故ニ名アリ其五峰ハ即
本邑ヨリ西山田原村ニイタリ南面ニ山嶽連
聯ノ所謂音無山及丸山等モ此西ニ並ハリ
古屋草紙ニ此院ニ朱印證領而石ヲ賜フト云

今詳ニスルニ謡曲哥占ニ二見大夫家次ト記

伊勢三郎義盛回居墟 三津ヨリ一町許東五峯
山ノ麓常泉院ト云小庵アリ此庵ノ東ニ小堂
アリ其後ノ竹林ノ地而墟ナリ或義盛幼童ノ
井此院ニテ學習スル処ナリ云近世薩摩國
松平薩摩守ノ臣伊勢兵部ハ義盛ノ後裔ニテ
此ニ尋問アリシ井此院既ニ義盛ノ遺物モ存セ
リ宝永四年大地震ニ山岳顛テ寺院モ埋亡セ
シヨリ今ハ一物モナシ其南ノ山腹ニ義盛硯
石ト稱ス青苔覆ヒ生シ葛蔓纏タル巨窟アリ
狀硯ニ類セス一夫四面許アリ岩頭ニ小ク四
ナル処アリ水ヲ湛ル如シ又因ニ御塩殿ノ傍
ニ硯洗水ト稱ス池沼アリ常ニ濁汚ニ淡黒

色ナリ其表ハ又又又サリ石 今云義盛硯
石ハ南山腹ニアリ危ク顛落スニキ狀ナリ故
名ク是雜記云姫小松ノ後ノ山ノ半サレ下
方ナリ小岩アリ毎歲少ク退リテ明ト云此地
方異ナリ硯洗水ハ淡黒色及スナリ石ノ歳々
退落スルト云ハ各土俗ノ奇ヲ罵ル処ニテ
信ニカクシ日本史云伊勢三郎義盛伊勢人
也初赫注三郎嘗殺姑夫久繫於獄遇赦而出往
上野國荒蕪郷居焉義盛往奥州也道經歷投義
盛家義經診其容貌奇士可用遂相約為君臣云
云伊水溫故云伊賀郡戈良村條北畠准后記
云此里ニ伊勢三郎義盛幼少ノ時同村ノ長

中井ト云者アリ彼ニ養育セラレ居ケルニ
テ世人三郎村ト云逆修ノ石塔アリ准后記ニ
伊賀郡ニ入ル如幻云三郎村ヲ才良ト謬ルカ
外ニ此史ニ似タル在名ナシ才良往古ハ藪カ
鼻ト云其ヲ三郎村ト号ス然ラ才良ト誤ル其
隣郷市部ノ里ニ中井氏今残アリ古傳ニ義盛
ノ死メ遺骸ヲ勢州羽津ノ寺ニ收ム石塔今ニ
アリ云云 此餘平治物語及源平盛衰記四十六
義經行家出都條ニ出
今詳ニスルニ伊勢三郎義盛郷俗相傳云本州
ニ見郷生産スル処ニ即常泉院ノ地ヲ回居
及誕生學習スル処ニ誇言スルハ其名始ハ注
三郎ト云云批ラ其因ナキニ非ス然レモ伊賀

州伊賀郡才良村ニ生育ノ而名三郎村ヲ今才
良ニ更タリ故ニ其地ニ逆修塔モ存スト此畠
親房准后記ヲ引批メ伊水温故ニ不処ナリ其
准后ノ所記ニ於テ誣ヘカヲ然ルニ其石塔
ヲ遺スルト云今猶索ルニ得難ニ後世喪フニ
及ヘリト謂ヘシ又義盛カ父伊勢郡司俊盛
三重郡福村ニ居ス其先未詳其子義盛此邑ニ
メ生誕メ後燒下ノ小六ト名ク鈴鹿山ニ強盜
メ後伊勢目代ニ從ヒ上野国松井田ニ移居ス
他家ノ妻ニ婚メ住メリト云平治物語ニモ載
タリ本邑所謂ハ二見郷三津ニ出誕スト云准
后記ハ伊賀国才良ノ地ト云平治物語ヲ引批

ノ三重郡福村出誕ノ地トス各其真ヲ得ス憶
フニ三重郡福村祖業ノ地ハ分明ナリ早ク其
俊盛ヲ喪ヒテ隣国伊賀ニ至リ中井某ニ託テ
生育シ後ニ二見郷ニ浪零メ江三郎ト称シ或
鈴鹿山ニ沈落メ焼下小六ト称シ或上野国荒
蒔郷ニ潜居メ其主ニ遇メ伊勢三郎義盛ト称
スルハ其昏ニ拠テ各徴ヲ得ヘシ然ルキハ本
邑ニ逍遙メ江三郎ト其逍遙メ所寓ノ地ニ迹
キ在名ヲ假タルトスヘシ生誕ノ地ニ非レハ
幼童ニ時学習スル処ニモアラス硯石及遺物
等ハ後人ノ牽強ト知ルヘシ又熱陽俚諺云葛
薨ル者採薪ノ為ニ山中ニ入シニ木根ヲ掘ケ

ルニ鎧櫃ノヤウト此物ヲ掘出セリ朽損ニテ
全ク取得難シ彼櫃ノ中ニ古キ壺アリ内ニ甲
冑アリ彼壺ヲ時ノ奉行石河大隅守ニ許テ甲
ノ鉢ノ裏ニ金ヲ以義盛ト記セリ糸金物モ黍
朽損シテアリ奉行命メ旧ノ如ク埋藏セシメ
松一株ヲ其標ニ栽タリ今ニ遺跡アリ義経ニ
從テ奥州ノ陣中ニ死タルヲ旧郷ヲ慕ヒ送り
ケルヲ此処ニ埋タルナルヘシ云云今此地ヲ
探ルニ未得トス其陸奥州ニ戦死スルト云ハ
非ナリ本州鈴鹿山ニ潜メ死タルハ盛衰記ニ
載ルコトニ故ニ本州三重郡羽津村ニ其骸ヲ
藏ム塔婆今ニ存スト伊水温故ニ載ス或三重

郡河嶋西福寺ニ墳墓アリ山古屋氏背書国誌
出タリ各訛レリ羽津村延命山正法寺ニ有
スルハ赤掘城主赤城左京大夫藤原国虎ノ墳
ナリ世俗伊勢三郎義盛ノ墓トス又同郡河嶋
ニ有スルハ其父俊盛ノ古墳ナリ前號三重郡
河嶋及羽津條ニ詳ニセリ伊勢ハ其生終ノ
地ハ大畧分明ニシ墳墓ノ地ハ未得ト謂テハ
シ又勢陽俚諺載スル所其甲ニ義盛ヲ銘ス
ルト云又幼童李習ノ硯石ト云ハ各俚俗ノ罵
ル処ナリ五雜俎云黃州東百里有孔子山相傳
孔子適楚嘗登此山上有座右草未不侵有硯石
每雨輒黑水流出所謂硯洗水硯岩及御座右等

此境ニ所在暗ニ前ニ合セテ是等ヲ闕リ後人
ノ附會スル処ナルヘシ

天覺庵寺 往昔ニ見郷日所建ニ今庵絶以
其旧址ヲ得難シ此寺ハ内宮ニ祿亘荒木田神
主成長ノ建立ナリ文治ニ年春東大寺俊兼坊
重源東大寺再宮ノ灵夢ヲ蒙リ西皇大神宮ニ
大般若經各一部ヲ奉納ス外宮宿坊ハ高日山
常明寺内宮ノ宿坊ハ此天覺寺ニ貴僧六十
口雜人七百餘輩五箇日淹留スリ成長饗養應セ
リ其時一日ニ見浦ノ風致ヲ看シトテ僧侶小
童相伴ニ遊興ノ餘和哥ヲ咏ス左ニ列テ其回
時ノ觀ノ慕ヲ伊勢名所和哥集ニ載タリ

... 聖法法師
... 景惠法師
二見浮天の岩... 辨慶得業... 慶尊得業... 小意如意
... 亀王... 小意如意

絶由章云東大寺参詣記... 立石茶屋... 三津... 立石崎... 九町半... 二見浦... 三見郷... 八順和名抄... 二見御厨... 惟... 倭姫命... 紀... 活目入彦... 五十狭

茅天皇即位廿五年丙辰三月然而二見濱御船
亦坐于時大君子命亦此箇名何問給旨以連而
二見因止白支云云度會清在云連而亦二見
二卜謂之為り祭語ナリ倭姫命是ヨリ前尾張
国及衆名ヲ辺ヲ經過大日南ヲ瞻望シ玉ヒシ
処ナリ今日前ニ是ヲ見玉フニ由テ間ニナ
以再ヒ見ル哉此嘆嗚玉ヒ云ニ見ル名起ルナ
ルハニ是確論ナリ大平記劔卷ニ伊勢国蓋見
浦作ル又同名ハ大和州宇智郡ニ見村及播
磨州ニアリ所謂二見郷其地負海帶河メ嵩
岳列リ村落纏テ一隊ノ嶋崎ナリ東西一里許
南北半里餘ニ及ニ其方俗ニ見七郷亦稱ル

村邑袋ノ溝口村一西村ニ出口ニ山田原ニ在
村賣三津村ハ七邑ナリ今出口村ハ廢名亡傳
在村ニ隸屬ス村民稱出口某ヲ稱スル多シ其
地ハ堅多神社ノ社域ノ西舊旧址ナリ今時ハ
今ニ色村ヲ加ヘテ七邑トス今一色ノ名ハ後
世ニ民居スル処ナリ江村三浦溝口山田原ノ
四邑ヲ南三郷ト稱ス山田原ハ溝口ニ隸セリ
是内宮領ニ屬ス北ニ郷ハ在村西村今一色ナ
リ外宮領ニ屬セ此雜記所載ハ今古ニ別ナリ
七郷惣裁メ二千百三十二石餘ノ田税ノ地
ハ今ハ私領ノ神境ニ同貢獻スルナリ昔
ハ神領ナリ更ニ謂ハス矢正慶長間志摩州

鳥羽城主九鬼大隅守喜隆三奪居セラレテ成
敗ニ從ヒ困窮スルニ及テ御長三村宗工門頻
リ公訴ニ及ヒ元和八年四月訴状ニ勢州
度會郡二見浦三塩役人百二十人ト書タルモ
此舉ニテ神役ノ奏セシメテ愁訴セリ其時奉
行花房志摩守官ニ告上メ寛永十年六月十三
日旧ニ復メニ宮供進ノ御塩勤仕ノ外ハ永ク
公役ヨリ免除ノ台命ヲ蒙リテ神境ニ還附セ
シナリ今時ハ御塩掌役ノ者七十餘家アリ三
村喜多井某二人ヲ御長トス三村其時ノ功勞
ヲ賞メニ見郷ヨリ永代現米百石ヲ恩謝ニ輸
シ公訴ノ件祈願ニ批テ毎歳ニ石ニ斗ヲ外宮

子良館ニ供進スル例トナリ又猶郡掌花房
志摩守ノ功勳ヲ賞シ寛永十年某祠ノ寛
メ花房氏ノ英名ヲ標メ石碑ヲ西村ノ東松林
ノ中ニ建リ外宮神領目錄云當時御贄ニ見
郷西大神宮ニ於外宮奉御塩名言闕ニ掛断ニ
桶苞コフノリ一桶大角豆み赤心六入松柏ニ
馱空苞云云此地撰集及家鈔ニ咏スル哥多
シ後世風咏スル処若干記スルニ追アラヌ玉
櫛篋ナ冠辞ハ尽ク飭フ処ニメ例哥多端ナリ
然レモ其一ニ大倭州ニ上山ニ咏ルヲ以此
奉テ其博聞ヲ希ヘリ

續古今
家持

むすむの春のあけむしむしけしやう山一り月くふきぬ
續後拾遺

ほろきいあうすしむるむしけしやうみ山れ春乃一り
猶其餘有ルハニ後致マ候モソナリ

新古今 源親房 實方 實方 實方 實方
ゆきこれ二見の浦をば浪乃神のしめさく仲津終人

金葉集 源親房 實方 實方 實方 實方
ゆきこれ二見の浦をば浪乃神のしめさく仲津終人

新勅撰 源親房 實方 實方 實方 實方
ゆきこれ二見の浦をば浪乃神のしめさく仲津終人

新後拾遺 源親房 實方 實方 實方 實方
二見浮月かきまきえる春伊勢波をくあきさる

夫木 家隆

全 春の春をばあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
惠慶法師

全 春の春をばあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
少将内侍

全 春の春をばあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
大時なむむもあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
洞院攝政

全 春の春をばあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
順徳院

全 春の春をばあきさるむしけ二見の仲子ゆき月けり
後三条範定

全 あきさるむしけ二見の浦をば浪乃神のしめさく仲津終人

全

謔人志

名寄 長明

古里の古系山やいふも二兄の浦乃と名乃と何言

全

神の上を渡り阿もあう二兄浮くともぬ月も打多れ

夫味

全

全んせんひの侍法ゆす衆も二兄の甲里人へたてり

全

戒秀法師

全玉うけ二兄の甲里乃むもぬ月堂城りひもる

全九月も二兄の里へ行く

全木人のとをさす

全時ちりてす

山家集 西行

全そそる二兄の浦はとあひあむ世とてあゆみ

全

全浪こすと二兄のねよえへつる

御集 後鳥羽院

全二兄浮春の埴屋は秋の月り

全

全秋の月ひりそはる

全

全あられなり二兄の浦は

家集

躬恒

全 ちりけ 二えの浦に 住むはまはるし ちりけ みるめなるしりり

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

全 ちりけ 二えの浦に ちよる月 影を 澄なるし ちりけ

正治二年百首

霞り暮れ極夜のくちか二足の浦にゆきゆく

文治六年百首

いつしうとるまきまうりむけ二足の浦にゆきゆく

建保百首

ついでに神の候にゆきゆくあけそ二足乃恨とそ

全

二見深谷の浦にゆきゆくけたはゆき神の候にゆきゆく

全

伊勢の浦にゆきゆく二足の浦にゆきゆく

全

宝治二年百首

文應二年百首

二足の浦にゆきゆく

全

弘安参詣記

全

御返り

全

天文十一年大神宮千首

全

左衛門督

全

後嵯峨法皇御製

全

御返り

全

御返り

天竺より来たるをいふに海を云ふは二見れり此浪の月氣
全行... 四辻宰相中將
浪まきいともいふ... 二見の浦乃高のゆゑに
文明十六年十二月廿五日右大将家月次
義教

此の浦乃高のゆゑに二見の浦乃高のゆゑに
士仙参詣記... 此名ともれん
老れ浪立はへきやなれん二見れり此名ともれん
家集... 源國永

全二見破部... 此名ともれん
全二見破部... 此名ともれん

全二見破部... 此名ともれん
全二見破部... 此名ともれん

清渚 今一色村ノ東高代濱及庄村ノ北亦越濱
ヨリ以東立石崎松下村ノ堺ニイタル海厓ノ
砂漠ノ地ノ惣名トスハ二見浦立石崎ニ限
ルニ非ス士仙参詣記及二見誌等ニ立石崎ニ
隸ル処ニ奉ルト云ハ今博ク指メ称スルナ
リ万葉集對馬州竹嶋浦詠セリ同名ナリ
坂土佛参詣記云俗ニハ此ヲ立石ト申ス也
大淀浦モ又夕リニ近ク伊勢嶋ノ方モ遙ニ詠
ヤル南ニ歩ミテ進ムレハ白キ砂雪ヲ潮ケリ

夫木

師光

いせの海法師 諸の約とて 郊のはとよ小貝ひろく

全 藤原八束朝臣

松のけの法師 諸の玉のはをえまきんきよりい屋造り

御集 後鳥羽院

二え浮月をいけいせの海法師 諸の素乃名樹尔

千五百番 讚岐

いせの海法師 諸の浪とて 君のあつろをよす体じり

建保百首 定衡

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

全 俊成女

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

全 兵衛内侍 山本

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

全 忠守 諸の諸り

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

催馬樂 諸の諸り

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

帝見や拾ひん玉也ひろく 諸の諸り

天文十一年大神宮 三條大納言 諸の諸り

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

續草庵集 諸の諸り

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

いせの海法師 諸の浪とて 玉也ひろく 諸の諸り

式外堅多神社 立石茶屋村ヨリ立崎ニイタル
松林ノ中ニアリ路ノ右ノ旁ニ詣人ノ便ニ遙
拜所ナリ本社ノ路ヨリ一町許西ニアリ三津
村ニ属セリ或ハ堅田ニ作ル内宮廿四处ノ撰
社ナリ一祭神ニ座佐見都日子命佐見都比賣
命 倭姫命世紀云活目入彦五十狹茅天皇廿
五年丙辰三月二見浦江御船亦坐于時大君子
命亦此國名何問給白久速兩二見國止白支尔
時其濱亦御船留給立坐時佐見都日女神參相
支汝國名何問給支御詔乎毛不聞御答毛不白
立以堅塩多御郷進支倭姫命慈給堅多神社定
給支于時大君子命其濱乎御塩並御塩山定奉

支内宮延曆儀式帳云堅田社一處称東方堅
田社形石座正殿一字長四尺四寸高六尺五寸
玉垣一重長四尺二寸高八尺坐地一町三百步
四至東山南公田西溝並百姓家北大海 寛文
撰社再興記云堅田社此社ニ延喜式社記ニハ
無之候彼書ニハ大國玉社ヲ載候ハ凡宝殿敷
地無之由社記ニモ見ヘ申候間此社ヲ其カハ
リニ入候テ可然候ハニ卜存候事但此社ハ二
見ノ役人建立申候而只今結構ナル事ニ候其
分ニ可然候事 伊勢旧跡聞書云倭姫世紀ニ
佐見都姫堅田社堅塩ノ下ハ佐見都姫ハ佐見
都彦命ノ妻ナリ不聞不白ハ敬慎ハ嚴肅ニ

敢テ言ハサルノ貌ヲ状ルノ堅塩ハ燒テ固
メタル塩ナリ今猶神供ノ塩是ナリ堅田社ハ
佐見都彦佐見都姫ヲ祠ルト云二見郷三津村
ニアリ堅塩ヲ献ルニ由テ堅田ト号スルカ田
ハ助語歟世俗吃呐ヲ患ハ暗啞ナル者ノ類此
社ニ祈ルナリ又大神ノ朝夕ノ供御ノ御塩ヲ
此地ヨリ献ルモ此ノヨリナリ云云
立石崎ノ堅田社ノ南ニアリ立石田名ハ坂土佛
參詣記ニ載テ康元中既ニ名アリ江村ニ至ル
海瀕ニ二箇ノ大岩相對ノ並立リ狀門闕ノ如
ク一ハ小一ハ大ニメ質蒼黑色木理アリ紀伊
州玉出嶋山ノ伽羅石ニ伯仲セリ其双岩ノ間

海注連繩ヲ牽タリ是海中ノ興玉石ヲ并スル
意ナリト云然レモ諸州諸客及ニ宮境ノ土人
此ニ詣リテ汚穢ヲ被禊スルニ海水ヲ浴スル
処ナリ是日本紀云伊弉諾尊曰吾前到於不須
也凶目汚穢之處故當滌去吾身之濁穢則往至
筑紫日向小戸橋之檉原而祓除焉遂將湯四滌
身之所汚乃奉言曰上瀨是太疾下瀨是太弱便
濯之中瀨也此遺事ニ批レリ文保記云浴塩之
祭可為敬神儀也出于濱有煩者汲塩不可有子
細歟ト云ハタリ今習俗ニ潮水ヲ汲テ竹筒ニ
盛リ或ハ此浦ニメ海藻ヲ採テ收乾シ汚穢ヲ
潔スルニ浴湯ニ和スルハ此謂ナリ此海藻ヲ

モクシホト称ス藻屑塩ノ言ナリ無垢塩ニ作
ルハ非ナリ又前號ニ載ス宮河ニ浴シ或天神
濱産屋濱高代濱打越濱等ノ忌服穢ノ輕重ニ
扱テ其禊スル地ノ異ナルハ日本紀伊特諾尊
ノ濯之中瀬沈濯於海底潜濯於潮中浮濯於潮
上等ノ輕重大意アルニ同ニ前ニ云此岩頂ニ
注連繩曰所牽ハ與玉神ノ并ニハ非ス其地ヲ
清潔ニスルノ禁禦ト謂ハシ與玉ノ名義ハ後
号ニ弁セリ立石崎ハ此双岩ニ扱テ名ヲ冒ス
処ナリ又此地ニ至ルニ立石茶屋ヨリ海崖ニ
至ル処ニ八九尺許ノ巨石ヲ並テ諸客ノ踏テ
潮水ノ滿ル処ヲ踰行ク飛石アリ潮水多ク滿
ル片ハ此石ニ激ノ飛奔ス故ニ往リカタシ此
処ヨリ北ニ山路アリ是ヲ越テ立石巖ノ垢離
スル地ニ至ルナリ此路ニ小流アリ較川ト名
ク橋アリ一ガウ橋ト云是小河ノ橋ニメ前號
山田中嶋所ニ小河橋アリ方俗金剛橋ト云ニ
同シ此山頂ハ即大夫松ノ生スル処ニメ立石
崎ノ後ニ峙タリ又此飛石ヲ踰ル邊ニヤグ
シノ祠ト云アリ白昏ニ燈ヲ点メ諸客ニ錢ヲ
勸ル処ナリ三狐神ト称ス是酒殿神宇賀御竟
命一名ニメ三狐ノ轉ナリ本郡有滝村同名ノ
祠ナリ三宮神或社宮司ニ作ルハ非ナリ是土
俗ノ私ニ置処ナリ最テ旧地トスルニアラヌ

トイハ厄勢陽雜記所載ニメ明曆中既ニ此祠
アリ故ニ載ス
興玉石立石崎ヨリ東六町許海中ニアリ潮水
ノ盈ル片ハ見難シ土俗云立石ノ頂ニ牽処ノ
注連繩ハ此拜処ニメ猿田彦大神ノ灵ニシテ
海神ニ崇ム與玉岩ヲ遥拜スルナリト云名所
圖會ニモ載テ海童神ハ日本紀ニアリ猿田彦
大神ハ非ス海神ヲ拜スルナルヘシト解セ
リ此惑神境雜話ニ與玉石俗猿田彦神ノ化玉
フト云ハ厄記録ナリトイハリ是方俗ノ諺ニ
メ此地江村松下ノ堺海瀕ニ猿田彦石猿田姫
石ト云ニ箇ノ嵩アリ各俗稱ニメ旧記所載ナ

シ凡テ三見郷ハ宇治郷ニ隣リテ宮域與玉拜
所同郷中村與玉森等猿田彦大神ヲ遺蹤トス
ルニ拠リ此地ニ與玉石ノ名存スルニ因テ猿
田彦石及姫石等ノ名ヲ冒犯セルナリ其猿田
彦ニ對ノ姫ト稱スルハ雌雄ノ義ニメ名ク処
晒フヘシ又與玉ノ名ハ前ニ謂猿田彦大神ヲ
指ス処ノ名義ニ同シカラス澳魂ニメ海洋中
ノ神灵ト稱スルナリ是舟人ノ崇敬スル処ニ
メ或ハ訛テ船ノ灵神ニ猿田彦神ヲ祀ルニ同
シク與玉ノ字ヲ此ニ假ルニ拠テ惑ヲ生スル
ニ至レリ海神ヲ表スル処ト云ハ得タリ與玉
ノ字ノ混用スルハ未辨故ニコレニ録ス

陽雜記 = 塩干石海中 = アリ世俗鏡石ト云潮
ノ満ル片ハ隠ルト云意ハ屈ムノ義ナルヘシ
云云是奥玉石ノ注 = 同シ各條奥玉石ヲ不載
今古異名スル処トイフヘシ
大夫松 = 立石崎ノ立石ノ後江村ヨリ西北 = 列
リテ山巔 = 一老松樹アリ高四丈許四五圍許
ニ及ヘリ東洋中及海西安濃津及一志浦等ヨ
リ眺ム = 一山ノ妨ルナキ = 扱テ能ク望タリ
海船ノ標トスル処ナリ此樹下 = 巨石瓦落ノ
多ク聚リ石墻ノ状アリ方俗伊勢三郎義盛居
城ノ址ナリト云故 = 此樹ヲ鎧掛松或義盛物
見ノ松等ノ名アリ或大夫ノ名 = 扱テ仁木左

京大夫義長此 = 倚レリ故 = 名ツク或ハ勢陽
雜記 = 秦始皇五大夫ノ封爵ノ談 = 扱テ此松
ヲ賛スル名ナリト称シ又東国ヨリ本州 = 至
リ二宮 = 詣スル客船ノ此樹ヲ標トシ彼地ハ
伊勢大夫ノ居処ナリト指ス = 扱ルノ名ナリ
ト俗解セリ各其實ヲ得ス伊勢三郎義盛及仁
木義長等ノ所居ノ徴ナシ猶其分野狭小ニ
殊 = 幽僻ノ地域居スヘキ処 = 非ス五大夫ハ
誣タル臆断ナリ稍少船客ノ指ス処ヲ是トス
ヘシ敢テ名アル老樹 = 非ストイヘハ是旧昔
ノ古蹟ノ謂アルニ扱テ遺名ヲ存セルナリ文
明三年国司北畠大納言材親外宮祠官村山掃

部助武則カ軍ヲ征セシ片武則カ敗卒ニ見浦
ニ走竄メ此地ニ砦ヲ築ク処ニメ其遺址ナリ
ニ批テ石屑及湮等ヲ趾ヲ存スルナリ此地ハ
同郷江村ニ属スル処ニメ今詳然リ江村ニ大
牙ノ地ニメ所謂江村城是ナルヘシ然氏一時
ノ營ニメ嚴重ナルニアラヌ其要害ヲ憑ムノ
ニメ不日ニ敗走スル故ニ其全備セサルヲ
今閱メ知ヘシ北畠源国永家集云玉手笈ノ咏
前ニ見浦ノ條ニ載ル如シ其餘江村ニイタリ
テ旧城墟ヲツカク索ルニソノ地ヲ得ヌ是此
ニ必セカ勢陽雜記云取出松又平松氏云蒔繪
明神ノ山上峯ニ從耳テ一木ノ松アリニ見ノ江

中ヨリ能ク見ユル云云其地ハ稍異ナリ外
云下取取出ノ名ハ砦ナリ城砦ヲ謂ナリ云々
各條ニ大夫松アリ江村ノ山半ニ大木アリ緑
葉毎年不出ト載ルハ各條姫小松ト云ヲ出ス
ト同譚ナリ孰此地ノ勝景ノ物ヲ不詳メ混ス
ルナリ取出松大夫松ハ同樹ナルヘシ故ニ其
砦跡ニ存スル処ノ古樹ニメ今ニ至リ名ヲ称
スルナルヘシ其餘敢テ旧典ニ批ナシ又此山
ヲ前賢所謂音無山ニ宛タリ其謂ハ音無山
夫木抄音無山ニ長明
松ヤシメ風ヤシシ地風ヤシメいじ道の秋ウ言ナリ此山
此ニ批テ此老松樹ノ存メ後世名アルニ牽強

ノ音無山ハ是ナリト称スルナリ音無ノ名ハ
旧文ニメ大夫松ハ近曾ノ賞スル処ナルニ其
本拠ヲ詳ニスルトヲ得ス妄ニ称スルニ拠レ
リ新刊名所圖會ニ此ニ効テ大夫松音無山ノ
上ニアリ仁木左京大夫義長カ城跡ナリ故ニ
大夫松ノ名アリト云ハ妄誕ナリ仁木義長事
實ハ大平記及吉野日記ニ載タリ此地ニ拠ル
典故ナシ此老樹前ニ記スルハ寛政中枯槁ノ
今亡シ其故ハ其片郡宰ノ令ニ拠テ久志本村
ニ鶴松新田ノ公穀ヲ藏ム倉廩ヲ修造ノ用ニ
樹下ヲ取石ヲ運漕以取タリ其根盤ヲ穿鑿シ
巨石ヲ動揺スルニ拠テ枯萎スルニ至レリ後

世若其地ヲ慕テ松樹ヲ栽ルト云フハ寛政中
式ニ至リ存スル文明中ノ古樹ニ非スト知ヘシ
後人ノ所為ニメ大淀松ニ相同ト謂フナリ
立石崎ヨリ江村ニ通スル海岸ノ路旁ニ宮石
ヲ峙テ寒風ヲ禦キ日光ニ映メ暖温ナル地ア
リ方俗乳母カフトコロト称ス又立石崎ト
江村ノ間海屋ニ突出スル巨崑鯨魚ノ偃魚、偃
卧スル状ニ似タリ方俗クシラ石ト云其餘此
海瀕砂中ニ珊瑚沙及鉄砂等ヲ産ス又沙磧
ノ中ニ白質ノ石アリ磨砺ノ研或石帶等ニ製
造スルニ雪白色甚硬ク光彩愛スヘシ近世好
事者多ク玩フニ至レリ新刊名所圖會或雜鈔

三粗載ル處故。此。贅ス。江村。立石崎ヨリ南三所。アリ潮水千夕ル片。ハ海厓ヲ至ルハ町潮満ル時ハ山路アリ迹。津村ヨリ二十町十五間。本邑東西四十三間。南北三町廿間。民屋百四宇。江村ノ名義ハ。村邑ノ南ニ五十鈴川朝熊川。二流小朝熊神。社前ニノ分流ノ一ハ潮合川ニ澆キ一派ハ三。津村ノ南ヲ經テ此地ニ東流ノ海ニ入ル又海。潮海。テ潮水合メ江河トナル故ニ名クナル。ヘシ或繪村ニ作ル是此地ノ致景畫圖ニ比メ。賞スルノ名ナリ猶蔭画松ニ對メ名ヲ冒ス。処。亦吾云ハハ孰好事輩ノ詩材等ニ字ヲ假用ス。

ルナルハ此所見

式内江神社。本邑。三町巽位。多ク堅多神。社ヨリ諸次ハ十三町。外内宮延曆儀式帳云。江村ノ西ニアリト載ス。今俗蔭画明神ト稱ス。古老傳云本邑往昔ハ江神社ノ東ニ居タル。処。ナリ漁獵ノ地。宜宜力ヲス。故ニ今ノ地ニ移。リ棲メリト云。然ル片ハ儀式帳ニ坐地ハ町東。ハ溝並ニ郷ト載ス。今尚方俗ニ異ナリ。及内宮廿四處。攝社十少。六祭神。倭姫命。世紀云。從其所。幸行。五。十。鈴川。後入。江州。入。坐。波。于。時。佐。美。留。彦。神。參。相。波。汝。問。給。此。河。乃。



水自細流通海脈 波横方頃列天冠
 雲晴雲起山高下 潮去潮来月浅深
 六十餘年漂泊處 江湖風景不如今
 伊勢名所拾遺和哥集注云三津村江村小
 間松原ヲ云 兼テ 大中臣輔弘
 金葉集 卷之八 大和 大和 大和 大和 大和
 勢陽雜記云蔣繪委又卷江松ニ見郷
 津村ト江村トノ間ニ山松ヲ云 兼テ 指
 云ニ非ス或説ニ今一色ト西村トノ間ノ松原
 云云又立石ノ南ノ山尾崎アリ一本ノ松ヲ
 云云トヘリ金葉集むくしけニ見の浦ニ見之けし符

繪之見之松此村之此哥云 兼テ 或云
 江村ノ江ハ曲ガテ山ニ卷タル故卷江ト云其
 向ノ東方ニ見ユル松ヲ云ナリ右ノ哥モ纏江
 ト蔣繪ヲ兼テ詠ル心ナラン是ニ松下領ノ松
 ナルヘシ土佛法印參詣記云云如此ト云ルモ
 松下領ノ松トナリ度會清在旧蹟聞
 書云江神社ハ神祇本源及神名秘書ニ大歳御
 祖禰宇賀乃御玉ニ座也ト云ニ見郷立石ノ南
 江村ノ西邊ニ社アリ村民聖田社ト對ス奥ノ
 明神ト云又近辺ニ一キ工ノ松アルカ故ニ蔣
 繪明神ト云共ニ俗稱ナリ今詳ニスルニ坂
 土佛參詣記云江寺ヨリ麓ノ浦ト指ス今

江村ノ南ノ江川ナリ曲渚猶然リ其松樹ハ何
処ヲ不知又此江ヲ卷江ト称スルニ批テ樹
其名アリトスルニ批テ躡蹠スルノ文章ナリ
然レ氏此曲渚ヲ指ニ批テ後世名所拾遺注ニ
三津村ト江村ノ中間ニ存ス松林トス勢陽雜
記是ニ例テ三津江村ノ地ヲ指ス又或説ヲ奉
テ今ニ色ト西村ノ中間ノ松林ト云是ハ非ナ
リ今一色西村ノ地ハ二見郷ニメ二見浦トハ
指シ難シ其二見浦ヲ賞スルハ立石崎ヨリ南
北數町ヲ謂ヘシ遠僻ノ地ニ及スヘカラス又
立石ノ南山尾崎ノ一樹ヲ云ハ非ナリ是前ニ
載ス大夫松ニメ後人音無山ニ宛ル処ナリ文

明中江村城址ニメ三百歳餘ノ名アル処ナリ
金葉集士佛參詣記ニ遙ニ後ナル井ノ前名
称アルヘキナシ猶參詣記不_レ_レの松函子出_レ傳
ハ曲リテ山ヲ卷タル故ニ卷江ト謂ヒ其東ニ
存スル樹ヲ指ス井ノ松下村ニ属ス処土佛所
言モ此ニ相同シト云ハ鑿セリ蒔繪卷江訓同
シト云ヘ氏金葉集所咏ハ其名相等カ故ニ読
合セタルニ非ルハ其謂ハ卷江ト云旧名
此江ニアル片ハ玉櫛筍ニ見ナトノ冠辞兼合
モアルヘシ卷江ハ後人ノ臆断ナリ上件ノ妄
誕ニ批テ旧蹟聞書江神社近辺ニ一キ正ノ松

アルニ松ヲ蔣繪明神ト云片ハ三津ト江村ノ
間松林ヲ指スニヨレリ各非トスヘシ今按ス
ルニ金葉集大中臣輔弘所咏云々ト云乃
浦北貝志付ト云云此歌六二見浦ノ致景ヲ玉
櫛篋ノ状ニ摸メ介石ノ滋生スル処ヲ螺鈿ノ
巧ニ目撃シ茂松ノ蒼蔚タルヲ描画ニ字ニ夕
トニ擬メ其冠辞ヨリ設作ル処ノ秀歌ナリ猶
一本ノ謂ニ非ルハ松ノ立ル群松ノ列リ
立ル意ナリ惣ノ歴代勅撰及歌鈔等ニ蔣繪松
ト云ヲ咏スル処ニ後作ナシ其謂ハ此一首ノ
哥ニ限り其致景ヲ摸タル意ニメ名勝ニ非ル
カ故ナリ濱菘及百枝松ノ例ニ異ナルヲ知ル
シ然ルニ後世蔣繪松ト称スル老樹アルニ惑
ヒテ其地其樹ヲ指スヘ大ニ僻言ナリ猶三津
ヨリ以東江村ニ至ル江河ノ前ニ載ス五十鈴
川ノ下流ニメ山岳ノ間ヲ流テ幽僻ノ地ナリ
然ルニ此地ニ此名ノ樹アルト云ハ氏強テ哥
ニ咏スヘキニアラス又咏スルニ例ノ下キハ
後人所咏アルヘシ其證哥ナシ此後世ノ惑ヲ
生スルハ土佛カ所言ニ批テ其蔣繪ト称ス樹
アルヘシト探ルニ及テ愈泥塗ニ陥リ卷江纏
江等ノ穿鑿ニ拘泥メ益溝洫ニ斃ルニイタル
嘆スヘシ度會常彰博見ニメハ濱菘百枝松千
枝杉大淀松蔣繪松等ハ一山一浦一國ノ所有

トノニ見浦ノ地方ニ生スル処ヲ金葉集ノ哥
詠ニ所賞ト憶フヘシ蔣繪ト称ス列樹一株ニ
限ラズ其樹アリト云ハ大ニ非ナリ惑フトス
不足

潮音山大江寺江村北山腹ニアリ立石崎ヨリ
八所方浴江寺ト称ス是旧名ナリ真言宗
伊勢順禮第一番本尊十一面觀世音行基大士
作

江古なる仙杜折^ひあつた海ニ見^れた^りよ又^も折^れ立^る不
仁王門ノ額ハ弘法大師ノ筆ト云古刹ナリ
士佛參詣記云山陰とをくめぐり入海の
地多^くて江古と申^す觀音の灵地ト云^ふに^もぬ^か昔

踏の^り石も^もと^も盤^{ツラ}か^らく^て溪^にせ^らり^き若^き出
かり^て黄葉と^もさ^らひ^くふ^くは^なあ^らわ^るる^る昔^の行
小^の携^りて^て遠^くさ^る岩^のよ^りは^な近^いよ^り修^房な
と^もと^もけ^れた^りや^も中^に傳^れた^り世^の中^に静^な
らぬ^よと^もさ^らく^く福^徳此^に止^む信^に入^るも^も海
士^乃す^くく^く何^んと^も阿^の羅^のを^もう^るに^なり^てを^所り^て
け^はは^な浪^舟此^に浪^とや^く新^のを^のこ^えは^な雲^霧乎^に
う^らい^しの^りら^り樵^路此^に斧^の言^乃風^はた^らふ^ら
響^をと^れし^す一^花一^香乃^は波^とを^流れ^ぬと^も千
糸^子服^此ち^うひ^とな^れる^も一^云し^此寺^ノ
麓^ニ清泉^{アリ}至^冷ニ^味淡^甘ナ^リ俗^龜井^ノ
水^ト称^ス毎^年六^月十^五日^内宮^贄海^神事^ニ此

寒水ヲ汲テ郷民ヨリ祿宜祠官ニ進ル例アリ
今詳ニスルニ旧昔ハ江寺ノニ稱シテ後世ニ
大江寺ヲ命スルナルヘシ今ノ村邑ヨリ山路
二町許石階ヲ登リテ山腹ニ至ル寺坊アリ康
元中ハ參詣記ニ載ルニ寺刹ハ荒廢シ民屋四
五宇ニ存ストイフ片ハ其寺刹ノ地ハ古昔ヨ
リ固有スル処ニ又今ノ地ニ同シ其時既ニ山
下ニ民舎絶ニ固ヨリ遺ルリ今時ハ村邑ノ多
ク居スルハ前ニ云江神社域ノ東ヨリ此地ニ
遷居スル処ナリ勢陽雜記明曆中ニ此傳説ア
リ其編集スルニ古老ノ所謂ト云片ハ明曆ニ
至リ百年ニモ及ハシ今ニ至リ二百六十餘年

本邑ノ遷居ニ有スル処ト知ハシ其江神社以
東ニ居スルト云ハ延曆儀式帳ニノスル処ニ
シテ千餘歳以前ノ旧邑ナリ寺刹及村邑他ニ
異ニシテ千古ノ旧蹤トイフヘシ勢陽雜記
云ハ釣釜姫小松ノ処ニアリ塩釜ヲ釣釜ト云
又今詳ニスルニ江村ト松下村ノ中間江淮
ノ中ニ一堆ヲ森アリ方俗釣森ト稱ス其地雜
記所載姫小松ノ生スルトコトニ非ス地方異
ナリ猶塩釜ヲ釣釜ト稱ス言ニ拠ハ古昔塩ヲ
燒ク地ナルヘシ今本邑及松下ニ其業ヲ
作スナシ其本拠未詳ニテ雜記所言姫小松釣
釜森退リ石大夫松取出松等其方位今所稱ニ

異ナリ如奇勝今古不差有之其探勝ス
ル時ニ鹵莽ニ以相混ノ記タルニ似タリ各兒
戲ノ譚ニ同ト云ハ其雜記所載ニ拠テ此ニ
再言メ猿田彦石ニ猿田姫石ニ同処釣釜森ノ
良位ニ下リ江淮中ノ巨石ナリ姫石ハ松下村
領天王森ノ東森水厓ニ下リ是立石崎洋中ノ
奥玉石ヲ猿田彦大神ノ灵石ト俗稱ス此ニ拠
テ此ニ嵩ニ對メ名ク処ナルハ之俚語ニシテ
本拠ナシ猿田彦ノ妃妻ト謂ヘキ名ナシ晒笑
ノ至リナリ此ニ據テ其地ニ在リテ其地ニ
蘆浦名所拾遺和哥集云ニ見郷ノ内江村ト松
下村ノ間ニ浦有リト古老傳十訓云昔松田

勢弘長元年百首 常盤井入道

漕かえり猿又そり人伊勢此やゆめくりする芦北浦凡

拾玉 慈鎮

あは浦のいとまゝなるもえさ浪はうては流さるり

名寄 真親

此そよく芦北浦間の夜半は月かみをうけて舟とともしる

勢陽五鈴遺響度會郡卷之十七終

落者五十鈴河後止白支此所亦江神社定給支
從其所幸行亦荒崎姬神參相支汝國名何問
給白久天照皇大神御前荒崎神白支恐志止詔
五荒崎神社乎定給支 内宮延曆儀式帳云神
前神社一処称國生神兒荒前比賣命形石坐倭
姬内親王定祝正殿一字長四尺弘五尺高六尺
坐地一町二百步西至東大溝北同南西山下畧
神名秘書云神前社在宇治郷松下國生神兒荒
崎比賣命形石坐在宇治郷松下村北神前每年
六月十五日奉宮祢眞到此海濱捕荒蛎御贊号
贊海神事 神名畧記云神前社一座荒崎姬命
寛文攝社再興記云寛文三年十月十一日神

前社ヲ建是ハ松下村ヨリ十町許北大海ノ端
大山ノ根ニ建二三十間西方向アリ但身ノヤ
ノ森ト云 九月十六日内宮ヨリ正眞祢眞一
人來于今神事有之社ノ西至西ハ大海後崎也
其外ハ山ナリ又云同四年九月廿三日江神社
神前社粟皇子社各迁宮儀式同前
被嶋 或被崎ト称ス神崎神社ノ前ヨリ海中
至リ一町許神崎山ノ岬突出スル処ナリ海中
ハ當石連リ偃卧メ平ニ座スニ海潮満ル時
ハ隱テ見ルナシ土俗其岩ニ御座岩魚盤石笏
立岩ノ名アリ是每歲六月十五日内宮祢眞神
人等此ニ至リ荒蛎海松等ヲ采テ翌十六日月

次祭由貴大御饌ニ供進スル処ノ料トス荒蛸
ノ御贄ト称ス及東洋飛島山ニ對メ被禊ヲ執
行ス贄海神事ト称ス後飲宴ヲ外宮瀆出神
事ニ粗同シ御座石ト名ハ其座列スル処ヲ指
ス或庖丁烹煎スル処ヲ魚盤石ト称シ被禊ヲ
修スル処ヲ笏立石等ノ名ヲ冒ス此神事ハ内
宮年中行事ニ其式詳ナシ海菜ノ類ハ悉ク草
苞ニ裹テ持歸ヒリ其草ハ同郷一宇田村若シ
山ト云地ニメ刈收メテ用トス例式ナシ故ニ
被嶋被崎等ノ名アリ勢陽雜記志州神嶋條ニ
魚盤石神樂場被嶋ノ名ヲ載ス非ナリ是混合
スル誤ナリ猶神樂場ノ名ハ此神事ノ時ニ神

崎神社ハ傍ニシテ神樂役人ノ奏スルノ地ナ
リト云フ
神崎山ニ神埼神社ノ西松下村ノ後ニ從耳タル山
左ナリ鴨長明伊勢記云西行法師住持リクは
安養山ヤリ小知トクノ歌ナト一付
其日付海邊落葉ト云フ
夫木
勢陽雜記志州神嶋ノ條ニ此哥ヲ引扱メ神嶋
山ニ作レリ又名所圖會伊勢記詞書ヲ奉テ海
邊落花ニ作ル各非ナリ海邊落花ニ題スル片
ハ哥ノ意解ニ難シ落葉ノ隱題ニ聞ヘシ秋月

ノ景致此ニ合メリ

潜嶋 神崎神社ノ巽位神崎山ノ岬海崖ニアル

巨岩ニメ洞穴アリ潮水涸ルキハ人其穴ヲ潜

ル戯トス潮水満ルキハ至リ難シ故ニク、リ

嶋ト名ク一堆ノ島山ニ非ス其岬ノ山ハ悉ク

嵩石ニメ立石崎ノ如ク突立スル岩ヲ指メ云

立石崎ヨリ八町許南ニアリ潮涸ルキハ海厓

ヲ至ルヘシ

式外許母利神社 神崎神社北ノ山ノ岬ニアリ

海厓ニ臨ム平林ノ中ニ坐ス方俗神崎社ニ對

メ上ノ小森ト名ク北上南下ノ方位ナリ小森

ト称ス社號ニ劬夕能乎ルヘシ 祭神粟嶋神

御魂 内宮延曆儀式帳云粟嶋神御玉形無粟

嶋神ハ即道主命ニメ粟皇子神社ニ所祀ナリ

名社十五社ノ内ニメ内宮ノ末社ナリ 旧蹟

聞書云江村ノ東南ニ當ル此社ノ森ヲ村民称

メ下小森ト云社ノ上ノ山腹ニアルヲ上小森

ト云上小森ニハ社ナシ式外攝社神崎ニ坐ス

許母利社ナルヘシ 度會延賢攝社參詣記云

許母利神社一座粟嶋神御玉粟皇子ノ御玉ト

云下ナルヘシ神前社ノ上ノ山ニ森アリ社七

ニ俗ニ上コモリト云云今詳ニスルニ粟皇子

神社ハ倭姫命定祀ニメ其地ヲ淡嶋ト称スル

ニ拠テ粟嶋ト換用メ即粟皇子ノ社號アリ其

神ノ荒魂ヲ此ニ祀リテ許母利神社ト名ツク
紀州名草郡粟嶋ニ異ナリ又度會清在所言上
小森ニ神社ナシ延享年間然リ寛文三年大宮
司精長再興ノ事ニ其奉ナシ今神社一字アリ
是後人所建ナリ
式内粟皇子神社同村ノ南伊氣ノ浦北厩松林
ノ中ニアリ神崎神社ヨリ南三十町江神社ヨ
リ二十五町ニ祭神淡海子神倭姬命世紀云
活目入彦五十狹茅天皇廿六年丁巳冬十月甲
子當奉遷于天照大神於度遇五十鈴河上云云
倭姬命御船乘給御膳御贄所地止定幸行嶋々
國々在々亦朝乃御饌夕乃御饌止詔而湯貴潛
女等乎定給天還坐ス于時神境定給支戸島志
波崎佐和加太伎崎嶋定給而伊波戸居給而朝
乃御氣夕乃御氣在所定給然而倭姬命御船留
給而鱸廣鱔狹毛乃貝滿物奧津毛辺津毛刺依
来尔海乃塩相和而淡有介留故淡海浦止号支
伊波戸居嶋乎各戸嶋止号支波刺所乃名乎柴
前支止号支從其以西乃海中亦七箇嶋在所從
其以南海塩淡甘支其島乎淡良伎乃島止号支
其塩淡満溢浦乃名乎伊氣浦登号支其所亦參
相互御饗仕奉神乎淡海子神止号互社定給支
其所亦朝御氣夕乃御氣供奉支其名乎御氣嶋
定給支云云注云淡海子神一名道主粟御子

云云 鎮座本紀云素盞烏尊子氷沼道主注云
亦名粟御子命 元々集社記云在伊介嶋須佐
乃乎命御玉道主命 神名秘書相同 寛文撰
社再興記云寛文三年十月十一日粟皇子社神
前ノ社ノ北東ノ方十四五町モ有之 入海ノ中
ニ五六間四方ノ嶋アリ 此嶋ニ並テ南ニモ小
キ島アリ 何レモ白キ宮ニテ 劔ヲソコニ
如キノ石アリ 然レモ和ナル石ニテ 碎候岩ナ
リ 此島ヘハ 殿舎建処無之 故先々 歸リ申候以
上 三度罷越檢分仕候 此島ハ 伊勢志摩ノ國
堺ナリ 又云 寛文四年九月廿三日 江神社神前
社粟御子社各近宮儀式同前

牛頭天皇社 江村ヨリ 巽位四町ニアリ 五十鈴
川ノ下流 江河ノ舟涉ヲ 經テ 南ノ洲崎小丘ノ
上ニ 蔚林アリ 本邑ニ 屬ス 一名御船ノ社トモ
稱ス 鳥居右ノ傍ニ 末社石積アリ 二鳥居右傍
ニ 石疊アリ 末社ノ神拜ナリ 正面拜殿壇上ニ
末社御門玉垣一重左右 傍ニ 神拜ノ石疊各一
區アリ 左ノ林中ニ 神拜石疊一処アリ 是ヨリ
裏ノ鳥居ニ 至ル 正面南向松 下本邑ヨリ 至ル
詣路ナリ 祭神素盞烏尊 例祭六月十四日 京洛
祇園會ニ 飭テ 此日ヲ 祭奠ス 方俗 蕪民神祠
ト云 同域ニ アリ 直指秘傳抄云 素盞烏尊根ノ
國ニ 下リ 玉ヲ 片風雨ニ 苦ニ 諸神ニ 宿ヲ 乞玉

へ氏許サリケリ爰ニ口夕ノ国ニ巨且蘓民ノ兄弟アリテ巨且ノ家ハ豊ナレ氏心情不仁ナリ蘓民ハ負ケレ氏慈愛ノ心アリテ尊ノ御宿ヲ申テ粟飯ヲ進メ奉ル折節アハサノ国ヨリ暴疫鬼来ルヲ察玉ヒ蘓民カ家ニ茅輪ヲ造テ帶サセ玉ハ翌日ニ至テ一村ノ内蘓民カ家ノ恙ナク死ヲ免レタリ斯テ尊別ニ臨テ曰此後疫氣流行ノ片アラハ蘓民将来子孫ト書テ門楣ニ点シ置ク者アラハ其禍ヲ退クトシトナン教玉ヒシトソ云云公事根源云素盞烏尊ハ即祇園ニ祭ル牛頭天王ニテ又武塔天神氏申スナリ南海ノ女子ヲ娶テハ王子ヲ

生セ玉ヒ彼風雨ハ片モ其女子ヲ連サセ玉ヒケリ云云牛頭大神ノ名ハ旧事紀ニ載タリ蘓民将来ソノ陰陽ヲ説ク蓋管内傳或ハ備後国風土記ニ出タリ總国ノ中ニ村邑生土神祠ニ神名詳ニ難キハ今多クハハ王子ヲ祭祀ルト云是厩等家ニ陰陽道ヲ兼学メハ将神ヲ称シハ王子ニ混合ス説アリ本邦厩博士ノ陰陽道ヲ兼ルル弊習ナリ伊氣浦同処ニアリ東海ヨリ神崎ノ南ヲ盤旋メ松下村ノ南ノ山中ニ深奥ノ処ニ入タレ江海ナリ即和名鈔伊介郷ニメ其地ニ存スル海浦ノ名ナルヘシ或伊介ニ作ル神鳳抄云内宮

伊介御厨伊介郷六前條郷名ノ号ニ録セリ此
地ヨリ志摩州荅志郡堺ノ処ニ諸島村邑大
畧此郷ニ隸屬セリ今古差異ナク旧昔ノ所有
ノ典故ニ拠テ審ナク石埼文雅郷談云伊氣郷
ハ小濱村ノ西ナル伊氣浦ヨリ起レリ識者云
伊氣浦ノ名ニ存テ郷ハ廢亡セリ今鳥羽ノ
城中ニ相橋アリ其下流ニ堀口門ノ際ニ至ル
昔日本所ト大里町ノ中間ヲ經テ常安寺ノ門
前ニ及ルル當時舟ヲ通セシト言ヘリ今モ
溝ヲ洩是ヨリ南東ニ志摩国荅志郡ナリ北西
ハ伊勢国度會郡ナリ産神社ニ各別ナリト言
ス片ニ伊氣郷ニ屬スヘキニ似タリ鳥羽領ナ

ル堅神村觀音寺ハ仁和寺ノ末ナルカ本寺ノ
記録ニハ勢州度會郡堅神村ト在ナリト住僧
ノ話ナリ云云今憶フニ伊氣浦ニ隣比スル小
濱村ヨリ堅神村及鳥羽府城北ニ相橋ノ地ニ
イタリ本州松下村ヨリ南位山脉海水相連テ
一隊ノ如シ上世ノ本州ニ屬スルハ更ナリ後
ニ国郡ヲ分置スルニ拠テ此郷モ終ニ其名ヲ
存スナリ此海浦ハ両山ノ灣ニ所在リ地ニメ
寒月甚温ナリ故ニ海魚多ク會聚ス殊ニ鯔魚
多シ地方ノ民漁スルニ罟網ヲ容テ獲ルル巨
方ナリ俗鯔楯ト云其海面ヲ網羅ヲ楯ノ如ク
張テ捕ル故ナリ志州鳥羽浦モ然リ其舟裝聚

集軍戦ニ似タリ或云此処ヲ万葉集をこの浦
夫木集おとの浦風ノ和哥ヲ引テ此処ノ咏ト
ス其故ハ淡海ノ字ニ拠テアハウミノ畧ヲミ
ノ浦ナリト必定セルナリ非トスヘシ前號安
濃郡大部田ノ條小忌浦ニ審ニ弁セリ併替ヘ
シ風俗ノ名置ニキル此際ニ於テ其故ハ
浮島山 伊介浦ノ海産魚アリ高嶽ナリ或云伊
氣浦ノ海中飛島ノ東ニ在ル離島北一島ナリ
トイフハ非ナリ名所拾遺和哥集云松下村ノ
東伊氣浦ノ見渡ノ離島ナリ云相同シ神宮
雜例集云度會郡二宮御領其中伊氣御厨浮嶋
御厨神鳳抄内宮伊介御厨ニ作ル憶フニ其洋

中ノ孤島ニノ居民ナシ稲果柴薪魚藻ノ貢ス
ヘキ処ニ非ス御厨ノ名アルヘキナシ故ニ飛
嶋ノ東ト云ハ非ナリ此松下村ニ属スル処ノ
山岳ヲ指メ得タリトス
家集 延喜十七年伊勢斎宮ノ湯料名有る不
トカハ世経ハ湯屋風ト躬恒
トヤヤク、身付キ湯屋風トなん流ト川ノ世と経れし
夫木 寂阿
深瀬 飛嶋ヨリ以西火打嶋ノ中間ノ海ヲ俗称
ス火打嶋ハ今志摩州小濱ニ属メ日南嶋ト云
ナリ此地海中大ニ深メ東海ヨリ潮水ノ往還

スルノ喉口ナリ故名ク日南嶋ハ内宮儀式帳
云四至神境北比奈多嶋魁島云云是ナリ魁島
ハ石崎大雅云雜例集所載ノ戸嶋ナルヘシ今
甕嶋ト云ハ後人ノ魁ノ字ヲ訓シ訛ルナリ此
嶋荅志郡ノ東北ニ在去一ニ里許是恐非ナリ
魁嶋ハ戸嶋ニ同シ魁ハ音邊ト訓ス戸モ訓同
シ倭姫世紀云故ニ淡海浦止号支伊波戸居嶋
乎名戸嶋止号支云云此戸嶋ニメ伊氣浦ノ地
ナリ伊波戸居ハ齊戸ニ畧メ其御贄ヲ定ル所
ノ神ノ謂ニメ戸ハ瓶ノ同訓ヲ以テ轉メ魁
ノ字ヲ用タルナルヘシ然ル片ハ今神嶋ハ古
名甕嶋トストイヘシ或ハ海亀多ク棲居故ニ

亀嶋ト稱ス後又神ノ字ヲ轉メテ此地方白リ
五里大洋中ニ在ナリ其地遙ニ此ノ隔テリ猶世
紀所載ノ方位ニ異ナリ其次柴前云云儀式帳
比奈多嶋魁嶋志婆崎云云是ナリ以南酒滝島
阿婆良岐嶋ト次第スル神境ノ封疆ナル也ハ
今志州島羽府城ト其東北ノ海島ヲ指ス処稍
ク二三里ノ間ニ在リ神島ト志摩三河国堺ニ
迹ニ此ニ次第スルニアラス古今志摩州ノ隸
属ス処ト知ヘシ此地以南ハ今志州ノ隸
スル故ニ此ノ奉セズル也ハ古
飛嶋ト神崎神社ノ南潛島ヨリ海中二十町良位
ニ在リ各孤嶋トメ七箇連聯次第ニ相並ナリ

飛テ踏躰ヘキ状ナリ故ニ飛嶋ト俗稱ス志摩
州旧圖ニスウキ嶋ト記セリ洲浮ノ島ヲ謂ナ
ルヘシ旧名阿波羅伎嶋ナリ淡良伎之嶋ヲ古
典ノ正名トスヘシ其孤嶋ハ離々トシ七嶋不
毛ノ二嶋アリ其東ニ列レリ毛ナシ嶋ト稱ス
其餘樹木森然タリ然レテ居民鳥獸ノ栖居ス
ルナシ東洋中及朝熊岳ヨリ能ク臨ム処ナリ
此島志勢二州ノ堺ニメ志州ニ屬スルニ迹ニ
故ニ二州ノ地誌ニ混セリ至世ノ神境ニメ伊
氣御ニ屬スルハ分明ナリ倭姫命世紀云波
刺^ニ処乃名柴前止号支從其以西乃海中亦七箇
島在所從其南海塩淡甘支其嶋乎淡良伎乃嶋

止号支云云前号伊氣浦ノ條ニ既ニ標出セリ
内宮儀式帳云北比奈多嶋龜島志婆崎酒滝嶋
阿波良岐嶋云云是ナリ柴崎ハ今ノ志州荅志
郡挑取島ヲ指ス鳥羽府ヨリ海東廿餘町ニア
リ是東洋海ニ接スル処ニメ其海潮ノ此地ニ
至ル処ナリ飛嶋ハ其以西ニアリ故ニ方位ヲ
問メ是ニ當ル処ナリ志陽畧志挑取嶋ハ夫木
所詠ノ磯等崎ニ填トス後替ヲ俟ヘシ今此飛
嶋ノ地ヲ經歷スルニ海潮以東ハ大洋ノ接ス
ル処ニメ至テ味鹹シ以西ニ二見浦ニ接シテ
河流相接リテ味淡ナリ世紀所載ノ神詔真ニ
然リトス其阿波良伎ノ名此ニ起レリ勢陽

雜記飛嶋ノ俗稱ハ二見浦ヨリ飛起ヘキ地ニ
アリ故ニ名クト謂ハ非ナリニ見立石崎ヨリ
以南二十餘町ニアリ猶松下村神崎山ノ岬ニ
隱蔽メ其七嶋ヲ觀ルハ時ナシ 伊勢名所拾
遺和哥集云 ありけりけりけりけりけりけりけり
たしあり内宮年中行事ニ伊勢名所拾遺和哥集
アリ時ハ ありけりけりけりけりけりけりけり
ありけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
或云夫木集ありけりけりけりけりけりけりけり
毛ナリカ成イハハ毛ナリケリケリケリケリケリ
スル処同ニ名所図會嶋七嶋ト申セトモ毛
ナリカ成イハハ毛ナリケリケリケリケリケリケリ

事ニ舟子ノ所語ノ催馬樂曲ト云ルニ三相同
シ各作者ノ名ヲ遺文島成ハ万葉集合ノ字
ヲ訓セリ共ニ意モ同シ或云西行上人并詠
スル処ナリ未詳是贊海神事ノ神樂哥ナルヘ
シ然ル片ハ其名ヲ載スル処ナシト謂フニ本
余詳ニスルニ勢陽雜記及新刊名所図會等各
此地ヨリ以東西ニイタリ諸嶋ノ列名ナリ皆
志摩州ニ隸屬スル処ナリ猶本州ニ屬スル処
方位異ナル地ヲ卷末附セテ今校討ニ其方
位ヲ分別スルニ勢陽雜記云神島鳥羽ノ良渡海
十五里人家五十字アリ云云引鴨長明伊勢記
秋を焼神島山と云云云云ノ歌ヲ載ス

磯間浦同処ト見エタリ万葉集月よりの光と
きよし神島の磯間浦ノ哥ヲ引扱ス各非ナキ
神島ハ鳥羽府ヨリ四里ニ在リ伊勢記神寄山
ニメ此地ノ咏ニ非ス既神崎ノ條ニ弁セリ
磯間浦神島ノ所有ニ非ス志摩州荅志郡桃取
村ノ條ニ載ス神島ハ今古志州ニ屬ス本州荅
地誌ノ標スル処ニ非ス又桃取嶋鳥羽ヨ
リ一里飛嶋ノ東ナリ云云少是志州ニ屬ス本
州ノ所隸ニ標スル處ニ非ス又宿嶋ハ是本
州三津村ノ所有ナリ此地志列ニ在リ非ス
近幸ノ地ト在リ二見浦トス萬葉記ナリ
又馬乗石ハ未詳又手節崎由鳥羽ヨリ二里

東北云云本州ノ所隸ニ非ス志摩州荅志郡荅
志村ナリ是持統天皇伊勢行幸ノ時人麿所咏
ノ哥ニ扱テ此ニ奉拜シ詠ナリ又波賀地濱
志摩州ニ隸セリ本州ノ所有ニ非ス又飯ノ島
鳥羽ヨリ十五里宿嶋ノ北ニ當ル云云飯嶋
ハ本州志州共ニ其名ナリ猶宿嶋ハ二見郷ニ
津村ニ在リ其北十五里ニ所有ト云片ハ本州
大湊ヨリ以北安濃郡津非リ白子浦ニ至ルハ
シ是疑クハ宿嶋ハ本州南海ノ所有ス宿浦
ヲ訛リ其以北ニ今飯満村アリハ一ト訛ス
此地ヨリ十五里許ニ至ルハ一ト訛ス
填ルト謂ヘシ又伊良仰嶋三州渥海郡

内鳥羽ヨリ東北渡海二十五里是三河州屬
スル処ニ本州ノ隸スル処ニテラズ然レモ
上世本州志摩州ハ一州ニテ後ニ分置スル処
ナリ伊良虞嶋ハ後世志州ニ領属スル時ナリ
ト云ヘモ本州ノ所有ニ非ス今ノ地志ニ上古
ノ所置ヲ標セス今ノ地ノ所有ニテ上古ノ論
メ方俗ニ論スヘシ不然片ハ分別シカク推
俗交加メ解シヤズキヲ此ニ舉タリ又小濱
鳥羽ヨリ北一里引込幸記云有小濱取鷲老在
支云云是皇大神遷幸ニテ倭姫世紀ニ所載
ノ此小濱ノ名ニ拠テ牽強ニテハ非ナリ此地
ノ事實ニ非ス前号大湊條ニ弁セリ猶此地志

州ニ隸スル此鷲取ノ名ヲ妄ニ記スルニ拠テ
志陽畧記ニ再注メ小濱村ノ條ニ誇言セリ各
勢陽雜記ノ訛ヲ傳タルナリ又篠嶋尾州
知多郡ニ属ス万葉集所詠篠嶋及阿胡根浦ハ
本州所有未詳篠嶋猶本州ニナシ又云龜嶋
ニ見ヨリ海路一里半男亀女亀ト云嶋ニツア
リ今ニ見海中ニ其名聞ナシ行程一里有餘十
ニ片ハ本州ノ所係ニ非ス所有ストイヘ下モ
志州ニ隸スヘシ或神嶋一亀嶋ニ填ル然レモ
雌雄二島ナシ恐クハ前ニ載ス三津村ノ南岨
龜森ノ重出ニ似タリ又云酢我嶋鳥羽ヨ
リ東南二里半今菅嶋ニ作ル志州荅志郡ニ属

セリ又云飛幡浦今ノ鳥羽ノナナリ志州
峇志郡ナリ云々又云神嶋西所ナリ一
処ハ紀州堺鳥羽海路三十三里云云一処ハ尾
州内海ヨリ海路廿三里伊良古嶋ハ三州ノ内
篠嶋ハ伊勢ノ内此三嶋一処ニメ三国ノ堺ト
云云各非ナリ一処紀州堺ト所言ハ本州ノ属
メ度會郡神崎村ナリ然レ此志勢二州ノ堺
此地ニ非ス前号ニ詳ニセリ一処尾州内海ヨ
リ海路二十三里ト云ハ志州峇志郡神嶋ナリ
然レ海路程甚遠ニ内海浦ヨリ至
ルハ其地ニ非ルハ何処ヲ指ス未詳本州
ノ隸ス処ニ非ストイフキハ此ニ標出スルハ

妄ナリ伊良真崎ハ三州渥美郡ニ属ス篠嶋ハ
本州ノ所有ニアラス前ニ非トスヘシ
此三嶋三州ノ堺ト云ハ今ノ伊良真神嶋篠嶋
ハ尾三志州ノ鼎足ノ如ク犬牙ノ地ハ然リ本
州ノ堺ニハ又云有滝云云本州同郡ナリ然
レ此此地境ニ非ス方位南北ニ遼ナリ大湊
猶同ニ田曾又云大湊ヨリ田曾迄ハ志摩
国中伊勢国不交是ハ海路舟行ノ至ルノ謂ナ
リ陸行スルハ本州ノ境地ナリ又云田曾
云云以下卷尾竈方六竈ト云ニ至リ各本州同
郡ニメ前号ニ標出ス志勢二州ノ堺ニアラス
此地ニ列スルハ非ナリ其餘村邑地名海船ヲ

纜ノ地等今古異同アリ猶訛謬多シ悉ク訂正
メ本郡首領ノ條ニ載タリ新刊名所因會所
編各勢陽雜記ノ啜醜ニメ是ニ從フ故ニ訛多
シ神嶋云云野間ノ内海陶器ヲ焼烟常ニ見ル
ト云ハ非ナリ其陶工アル地ハ尾州知多郡常
滑村ナリ小濱云云志州ニ屬ス有滝地方異
ナリ前ニ辨ス此地ニアルス田曾浦志勢二州
ノ海塚ニアリ志州ノ屬ナリ有滝ノ次條トス
妄ナリ宿ヶ浦是本州同郡宿浦ノ訛ナリ小字
花園ヲ隸スル片ハ南海ニ所在タリ此處
ニ非ス神津佐廻間慥柄礫浦相可ハ
相賀ノ訛ナリ阿曾津浦ハ阿曾浦ノ訛ニメ

各此地ニ非ス前ニ載タリ日和山佐田濱身羽
浦波賀地濱酢我島各志州ニ隸屬ス大方釜
本州度會郡紀州ニ迹シ此地ニ非ス志州伊良
仰島非ナリ三州渥美郡ニ屬セリ悉ク勢陽雜
記ニ從ヒ或ハ臆断ノ舉ル處ニ書ノ所編其地
ヲ不探ノ帛上ノ空譚ニ扱ヒリ故ニ妄誕多シ
前人編著ノ遺存スル處其探地ノ悉ク履歴ス
ルヲ不能ハ槩メ記スルニ戰兢ノ謾ニ不論以
閣筆者多シ後訂スル者猶詳ニ鑿不時ハ大幸
此ニ至レリ
千尋海或千尋濱神崎神社ノ前江ノ飛嶋至
ル中間ノ深海ヲ方俗深瀬ト稱ス千尋ハ其海

た柳の枝よはけてこゝろ切らせ休るるを

敦忠朝臣

伊勢の海はあゝ乃波の波よひらふも今に何ぞあゝるを

大和物語上巻今ハうひかなくあゝるは

家集

あひもるてあゝるをいふなりやをいふ海の名と波を

元輔

夫木天徳二年

西園寺入道大政大臣

その海をいふは海生所をいふは代は海に

全

あゝてなほけし海代とたのめが海をいふは海に

家隆

永日海のたたく波をいふはあゝるの海に

全

たたく波をいふは海に

千五百番

君もえん千尋の海は

天文十一年大神宮千首

赤松浪もあゝるの海に

伊勢海

伊勢海ノ所詠ハ歴代ノ撰集

リ其一処ヲ指スニアラハ一州ノ海

所詠ニ松レリ又伊勢嶋ノ所詠ハ上世志摩州

ハ本州ニ隸セリ故ニ例メ伊勢ノ名ヲ冒セリ
後代ニ至リ志勢ニ州ノ區別スル処ニ今ニ
於ルハ本州ノ嶼島ノ所詠トス非ニ有ニ非
ナリ各志摩州ニ係ル処ニ惟ク之ニ別本志州
誌篇ニ標ノ此州省カリ其餘至詳ニセシ猶紀
伊州ニ接ス地アリ當時ハ混スル所至ニ山家
集西行錦ノ島ノ咏ノ如シ今紀州牟婁郡ニ係
レリ新葉集夫木抄新六帖等此ニ拠レリ各今
本州ノ所有ニ非ス然レニ紀州地誌ハ方地ハ
列小接ストイハ本州ノ所係ニ非ニ故ニ其
言ニ暨ハス錦嶋ノ所詠ハ卷末ニ附メ其徴ヲ
示ス伊勢嶋ハ別卷志州編ニ載ス伊勢海ノ所

咏左ニ列ス

日本書記第三神武記

伽牟伽茲能伊齊能宇湊能於費異之珥夜異
波臂茂登倍屢之多儂湊能阿語豫之多太湊
能異波比茂登倍離于智豆之夜葦務

万葉集三

安貴王

古いせの海北澳津白浪屯よもつ波みていふ家つとる帯

全一四

笠女

全いせの海北澳津白浪屯よもつ波みていふ家つとる帯

全一七

讀人不知

全いせの海北澳津白浪屯よもつ波みていふ家つとる帯

全一十

人磨

いせの海は相な夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
全

いせの海は心けは田舎の言とも君のまえは家もんうと
全

いせの海は朝な夕なふらふ海の夕なまよふふらふの
古今こゝろの海は朝な夕なふらふの 読人志ん少人
全

いせの海は初すれ海はのうけなれやんひと川とよこめかた
全

いせの海は海はのうけなれやんひと川とよこめかた
全

いせの海は浦は塩くびらめ
全

いせの海はあまな夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
後撰 ちうちみーくきやうきよきよ由人な
全

いせの海はあまな夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
全

いせの海は塩く海はの古衣列はとすれとあまぬ君う那
全

いせの海はあまな夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
全

いせの海はあまな夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
全

いせの海はあまな夕なまかつてふ靴の貝は片おひーく
全

やよきりけり

源英明朝臣

いせの海北海生のそとふいとはたきなるしよける身を恨は

全 すまあや一人の身ひれい 躬恒

いせの海北海生のけかまを海生れとあうきんを度し流めを

全 渡人志り

いせの海まや君なる世は回りなきも海をみるかき

千載 権大納言實國

いせの海いせ雄の海ま京なるさりとみるめを刈りしう

全 権大納言俊忠

破あらいかきなる伊勢の海北海生はかき海まの海舟

全 前参議教長

いせの海北海生は神よもわすたふははるむと誓け

續後撰 土御門院

いせの海北天原系なる朝庭に海北海生はけふとそふ

全 大伴黒主

いせの海北海生の法をきよく佐露のそそをの夢を君よきこの海人

全 渡人志り

いせの海北海生は方そとふ忘貝子なるし君とあふめ

續古今 渡人志り

いせの海北海生は方そとふ忘貝子なるし君とあふめ

全 前大納言基良

いせの海北海生のめなきしとあひはなり 渡人志り

玉葉 高階宗成

いせの海北海生のめなきしとあひはなり 渡人志り

全一本 栄花物語

出羽辨

目の上よりかく荒果成いせの海とよむ此諸中おのひけり

藤原兼房

いせの海とよむ此諸中おのひけり

院御製

いせの海とよむ此諸中おのひけり

僧正行意

いせの海とよむ此諸中おのひけり

前中納言雅言

いせの海とよむ此諸中おのひけり

家隆

いせの海とよむ此諸中おのひけり

法眼源兼

いせの海とよむ此諸中おのひけり

権中納言冬教

いせの海とよむ此諸中おのひけり

皇后宮兵衛尉

いせの海とよむ此諸中おのひけり

津守國助

いせの海とよむ此諸中おのひけり

為家

いせの海とよむ此諸中おのひけり

前大政大臣

いせの海とよむ此諸中おのひけり

風雅

伏見院

いせの海北流まひろふたわくも神をいふたに相とこそ切人

全

崇徳院

家ん流まうしんいせの海北流のうけひくく一たけしん

新千載

入道前大政大臣

伊勢の海北流まのうけ縄う整門の切せたまも志原くもり相

全

藏人左近

いせの海北朝うら塩たつつけしとわつじ健を海まのいふを

全

道政法師

いせの海北流まの携縄流うよふひう福を東流存まうたし

全

前大僧正源惠

いせの海北流ま拾りぬむやれうる汐干の切しに巻ちるるる

新後拾

津守國夏

いせの海北流まやき衣この布とやあすといふしあ月海北流

新続古今

権中納言雅縁

名流あれや産の神に塩訓て得しせ男にあはれ存るる

全

大宰大貳重家

玉藻川流しせ男に海まの神をいふはめうしんを始めうしん

全

津守國夏

才そつう伊勢流まあまの焼塩工をうめ列るるいこれやいし

新續古今

左兵衛頼定

いせの海北流まくれ衣訓てしうあめえうめみとれてそあ

全

洞院左大臣

いせの海北流まうしん縄流まをうしん流やあめ海まのいしうり火

新葉

中務宗良

いせの海は波もし志のめは此果よ海のうけたるはも恨

拾玉

慈鎮

いせの海はあつきあひあて藤垣をむらりし事ぬえまきあけ

全

全

かきかき浦のまはもよせの海や神代の神りふれりよえ

御集

後鳥羽院

神風やしせの浪は地曜かすし吹よ流うらむれそ川を

家集

有家

こまけりてみや流まんいせの海は泊すは海まのうけたる

全

弁宮

つこの海もあはれんいせの海は底なる海まのうけりやとすは

全

元輔

浪をけえは夏ひらういせの海はしづみの方たあたまも

全

一本建保百首

元真

うゝゑもたむらむいせの海は海士の栲縄くまかえ

家集

定家

いせの海はよふはよふさうも思ふは阿波浦はまのいさめ

全

家隆

伊勢の海入りのまは地平海士と管はむらひら

御集

後鳥羽院

波もあまういせは海士の控衣をぬきし志はれ合ふなり

全

順徳院

いせの海は地燐の煙をよのこきと見ひのあひなり

全 伊勢の海士此報け乃り...

伊勢の海士此報け乃り... 元真

伊勢の海士乃ぬ... 元真

伊勢の海士乃ぬ... 貫之

伊勢の海士乃ぬ... 家隆

伊勢の海士乃ぬ... 寂蓮

伊勢の海士乃ぬ... 隆信朝臣

伊勢の海士乃ぬ... 伊勢

伊勢の海士乃ぬ... 辨入道光俊

伊勢の海士乃ぬ... 衣笠知家

伊勢の海士乃ぬ... 頓阿

伊勢の海士乃ぬ... 元真

伊勢の海士乃ぬ... 元真

夫木

鎌倉右大臣

伊勢此海浪よるる秋の夜乃るの月よけり

全

後鳥羽院

思ふよの世男此海土の海幸乃る長夜夜あけぬる

全

宜福門院

伊勢此海浪乃る海へくまの月よるる

全

顯昭

いせの海は海まのよるるちから神よ

全

和泉式部

伊せの海は海まのちから神よ

全

行能

伊勢此海浪乃るのちから神よ

全

衣笠内大臣

いせの海は海まのよるるちから神よ

全

歌林良材

神風やいせの浦揚よるる海まの

全

後九条内大臣

伊せの海や海まの

全

順徳院

いせの海は海まのよるるちから神よ

全

知家

いせの海は海まのよるるちから神よ

全

家隆

伊勢此海乃る神風

全 藤原氏家系の海名 範宗

全 五藤川流いせ雄神海まよいはたしむる長江も 杉河守まらん

全 行能

全 いせの海乃塩干も志まらむ夕かほりて 康元

全 伊勢の海乃塩干も志まらむ夕かほりて 康元

建保八年百首

開いせの海まはれしやうし海の奥くえんかほりて身まこ子え

續門葉集

伊勢地國まやこ世に浪乃志まらむよすはる

ありくのいのちもたのむるありし海に宣はる

けねしをたのむる

やそちほていの歌ゆるいせの海や老世の浪乃敷まらむ

天文十一年大神宮法樂千首 藤原氏直

波のうしよをまらむえんいせの海や 諸まらむる古海と名

全 廣橋中納言

全 あら海に浪乃まらむいせの海や 老世の浪乃敷まらむ

全 中務卿宮

全 君の代の光りそをあらむいせの海や 玉まらむる千のまはる

名所拾遺追考

名所海

霊元院御製

いせの海に諸まらむる海もあれは藤原氏中まらむ

全 為成

全

全

今いとおろひしこえなけし世の海氏塩用はか海士の釣舟

五鈴遺郷音跋

各州

遺郷音跋

勢陽五鈴遺郷音跋 卷之十八 大尾 五鈴遺郷音跋

勢陽五鈴遺郷音度會郡卷之十八 大尾

五鈴遺郷音跋

栗屋老人嘗欲編伊勢志羸疾十數年業未終而没々己六年未止人某氏抱遺稿圖不墜其志遂謀同志之人校輯成若干卷名曰五鈴遺郷音凡吾州山川邑里祠宇寺觀道路遠近事蹟物產載錄無遺但

皇大廟及 豐豆受廟事實關係

朝家大典者別輯為壹卷更俟他日考訂老人好歌詞特於俳體今所謂狂歌者

得意往々爲人所誦而至伊執力志之數舉則
人多未知也未比人克不隊士其志老人之功
皇可以不朽矣未比人之志亦可嘉夫

天保四年癸巳蒲月

正四位荒木田神主經

齊

おろしきをてやたそなみぬへいおとひと
人いなきはさしやの思ひか言流結ちひら
阿なまやん乃やかこい織の女も木存の
侍へふ母あさひのめいも夫あるものあまこ
とて此をこのこ妻のいやなみれか
か通り元侍て言たのめいも
志依一置んをたけ侍おす
いのおやんを巻よけ架侍
たてを我とひ
ななま
あり
く





十解の三ツの秋は末秋葉みよし入初月、以の終々
 秋もすて終つて望何となく却びては離れ
 詩も阿なれとまゝに白隠張たすやあは良ん
 十のあゝもも前並し 沖波の如きよれよと阿の
 むらさきへ袖ぬれて嬉たれ衣ひぬるよふ十の巻
 書をなせり七のあれや五のひら十の巻も去
 たりやもさうたの心又たよははも侍るな
 世占をさしませしやあは思ふなり乃
 らも侍るしやあはさしませしやあは思ふなり乃
 伊勢の海よふくも志阿のいしし一具
 人乃兄敷をよふくも志阿のいしし一具
 丁卯年正月の五日
 安岡八千女

勢陽五鈴遺響四十本明治七年七月校正

中邨元起



大内閣

Handwritten text in cursive style, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.



紙数六拾叁枚

63

